

幹事会議事録 (2003 年 7 月 11 日)

出席者 (50 音順): 小椋, 加藤, 鐘尾, 佐藤, 須井, 田中, 中村, 羽倉, 松村, (石原)

1. 次回 BMS 定例会 (11 月 25 日開催予定) 時の講演は, リスク評価に対する考え方や遺伝毒性の各試験系についての特徴や限界についての内容がよい。国立医薬品食品衛生研究所の鈴木孝昌先生に羽倉から依頼する。
2. 次回 BMS 定例会の世話人は中村が担当する。日本バイオリサーチセンターの三輪氏も世話人になっていただけるか, 後で加藤から依頼する。
3. 定例会の今後の講演内容として構造活性相関に関するものを企画したい。
4. 過去の定例会で講演された内容がわかるように, 今までの講演タイトルを加藤が調べ, まとめる。
5. 今までの BMS 共同研究で得られたデータは貴重な財産であるので, 埋没させるのではなく, 論文誌上で未発表なものは, 各共同研究グループの世話人と相談しながら, ノートのような形でまとめ, home page で公開する方向で考えていきたい。(羽倉注: 幹事会の後, 環境変異原編集委員長の森田氏から環境変異原研究への投稿の提案があったので, この手段も含めて検討したい)。最初に, 今までに行われた共同研究に関して何が行われ, 誰がデータを保持しているか整理されていないので, この機会に加藤が調査し, まとめる。
6. BMS home page へのアクセスは home page を維持する多大な労力の割には決して多くないが, home page は今後も継続する。そのためには, 定例会の案内や有用な情報をもっと載せるようにすることと, home page を運営する係りを現在の須井 1 人から 3 人体制に増やす。原稿の受領, PDF 化, home page 上への掲載作業, home page への掲載の承認・監視役 (会長が適任) につき, 後日担当者で役割分担を決める。とりあえず, 担当者は須井, 佐藤, 羽倉とする。
7. 共同研究は会の活性化に最も寄与する部分であることと, ヒト S9 を用いた共同研究が一息つき, 現在 1 テーマ (YG 株) しか動いていないので, 共同研究を立ち上げるよう会員に呼びかける。
8. 会員の BMS に対するニーズ (共同研究テーマを含む) を探るためにアンケートを実施する方向で考える。
9. 未解決の課題は電子メールを用いて議論し, 解決を図る。

以上